

It is cornflakes!

Meishu Hitachi Times

Written by
2-5 Mizumoto

No.2 Since 2020

MONDAY.MAY 13, 2020.

Kaminecho3-2-26 Hitachi City Ibaraki Japan

☎0294-21-6328

新型コロナウイルスの感染者の増加が止まらない。テレビから流れて来るニュースは連日、新型コロナウイルス関連で埋め尽くされている。

私たちの周りでもその影響は出てきている。4月6日に始業式を実施し、新年度が始まった本校も、15日より臨時休業となり、16日夜に安倍首相より発令された全国への非常事態宣言を受け、翌週に予定していた学年別登校も中止された。

本来教室で行われる授業内容は、自宅で学習できるよう、各担当教員から課題の指示が出された。中には、オンラインのミーティングアプリを用いて、リアルタイムの授業を行ったり、授業内容を撮影し、動画投稿サイト「You Tube」にて配信する教員も見られた。

職員室にも感染拡大の対策がとられた。20日の朝、職員室に来て見ると、向かい合わせに配置されている教員の机の間に、透明なアクリル製のパーテーションが設置されていた。地域のスーパーなどでも、レジを打つ従業員への感染防止策として、パーテーションが設置されている所が、急増している。

英語科の松原教諭は、「パーテーション以前から、私の目の前には大きなパソコンのモニターが置かれており、対面で向かいの先生と話す機会はありませんでしたのでそれほど変わりません。しかし、感染拡大の配慮をしてくれたことは嬉しいです。」と話した。

一方、反対側の席の、情報科・佐藤圭市教諭は次のように話した。「向かいの松原先生の顔をのぞき見るようなスペースは空けてある。これまでも見つめ合うことがたびたびあった。パーテ



(写真：パーテーション越しに仕事をする榎村教諭と縁にぶら下がるフチ子)

STOP!! 感染拡大 職員室にパーテーション設置

ーションが透明だったので、今後も松原先生の顔がのぞみ見ることができ、安心した。」

学校が休校となったたり、週末も外出自粛の要請が出たりと、感染拡大を防ぐために、世界中で対策が講じられている。最前線である医療現場では、マスクや防護服、人工呼吸器の医療機器が不足し、従事者の体力面、精神面が限界にきていると報道されている。

この、歴史に残るパンデミックの収束に向け、一人ひとりの戦う姿勢が、今求められている。私たちは、どのような状況下にあっても「学び」の手を止めてはいけない。

自粛生活を彩る 手作りマスク

全国的なマスク不足に対し、「手作りマスク」が普及している。本校でも教員たちがさまざまな手作りマスクを着用している。家庭科の仁平先生は得意の裁縫技術を生かし、教員たちにプレゼントしていた。どんな状況でも工夫次第で楽しむことはできそうである。



(写真：左 奥様手作りのマスクを着用する萬場先生。バリエーションは10以上ある。

中 自宅の近所の知人からもらったマスクを着用する、滑川良子先生

右 自ら手作りのマスクを着用する仁平先生。ワンポイントの赤いさくらんぼがかわいらしい。

さよなら、Bコース… 担当教員ら記念植樹

2020年3月に行われた卒業式をもって、本校最後のBコース生73名が巣立ちを迎えた。

2007年からの全校特進化に伴い、体育コース、情報コースなどを廃止し、Bコースは誕生した。

その歴史の中で、本校初となる、現役高校生からのプロ野球選手を誕生させている。同コース生は部活動での活躍が目立ち、本校卒業後は、強豪チーム有する大学へ進学する者が多い。

最後のコース生たちが巣立っていった数日後、本校の小体育館裏の、ゴミ置き

のため、叶わなかった。いつか、今年の卒業生たちの子どもが本校に入学してくれた時、大きくなった、この桜の木と一緒に眺められたら、嬉しい。」



(写真：周囲の野草とともに元気に成長するBコース記念植樹の桜の木)

校舎は、その時代に生きた人々の歴史を紡いでいる。しかし、その歴史は語られないものも多い。かつて、保健室前にあった藤棚や敷地内に埋まっていた3本の大木も今はなくなってしまった。令和に生きる私たちにとっては、何てことのない、もしかしたらその存在にすら気がつかない「モノ」にも、ある時代の人々の想いが詰まっているのかもしれない。

合唱同好会 「0」から「1」を創る人 2-2 坂本美空

令和元年度、本校に合唱同好会が発足した。評議委員会にて提案し、承認された。提案者は当時1年生であった坂本美空さんである。「中学時代に続き、合唱をやりたい。また、勉強以外にも高校時代にしかできないことをしたい。『ないなら自分で作ろう』と思った。試行錯誤の毎日だが、まずは会員集めを頑張る。」と坂本さんは話す。「0」から「1」を生み出す行動ができる人は貴重な存在である。彼女から始まる本校の新しい文化に期待する。

場の奥で、体格の良い男たちがスコップを片手に集まっていた。令和元年度同コース主任の神永豊教諭と、学級担任、副担任であった大塚義典教諭、鎌田大河教諭、寺門大輝教諭である。手には桜の苗木が抱えられていた。本校最後のBコース生卒業を記念し、桜を植えるという。

植樹について、6年間同コース生の成長を見守ってきた大塚教諭は次のように話した。

「本当は卒業生たちと一緒に植えたかったが、新型コロナウイルス感染防止対策